

【高等学校の部 優秀賞】

「感謝のお弁当」

智辯学園高等学校 1年 齋藤 由樹

僕には忘れられないお弁当があります。15歳の春のある日、心がモヤモヤして母に反抗的な態度をとりました。学校で嫌な事があったわけでもなく、母にそんな態度をとる理由もありませんでした。でも何故か、イライラしていました。強い口調で母に放った言葉はもう取り消せません。謝る事もできないまま朝を迎えました。母はいつもの様に朝食を作り、僕にお弁当を持たせてくれました。昼食時、お弁当箱を開けると、僕の好物なおかずがぎっしり詰まっていて、「今日も元気良く」と書いたメモが入っていました。おかずを噛みしめながら僕は、はっとしました。自分の事を支えてくれる人に対して、何ていう態度をとってしまったのだろう…と。その夜、初めてお弁当箱を洗い「いつもありがとう」と母に伝えました。

感謝の心を忘れてはいけない。

自分一人で生きているのではない。

大切な事をあの日のお弁当から教わりました。